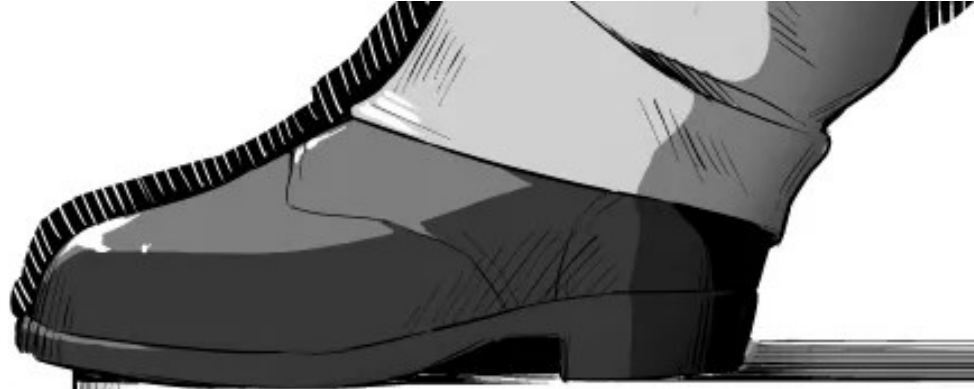
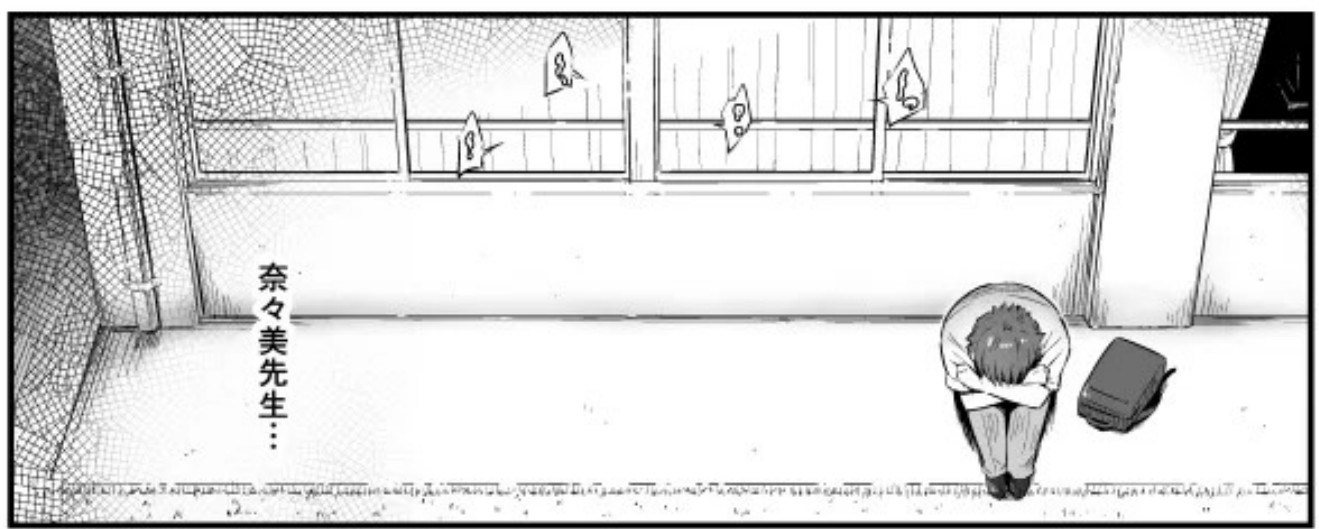


なんで...







奈々美先生...

30分前

ああ
来てくれましたか

…なにか
御用ですか？

ふふ…

奈々美先生





あれから

どうだった？



そ...

そんなこと...っ！



ここ数日

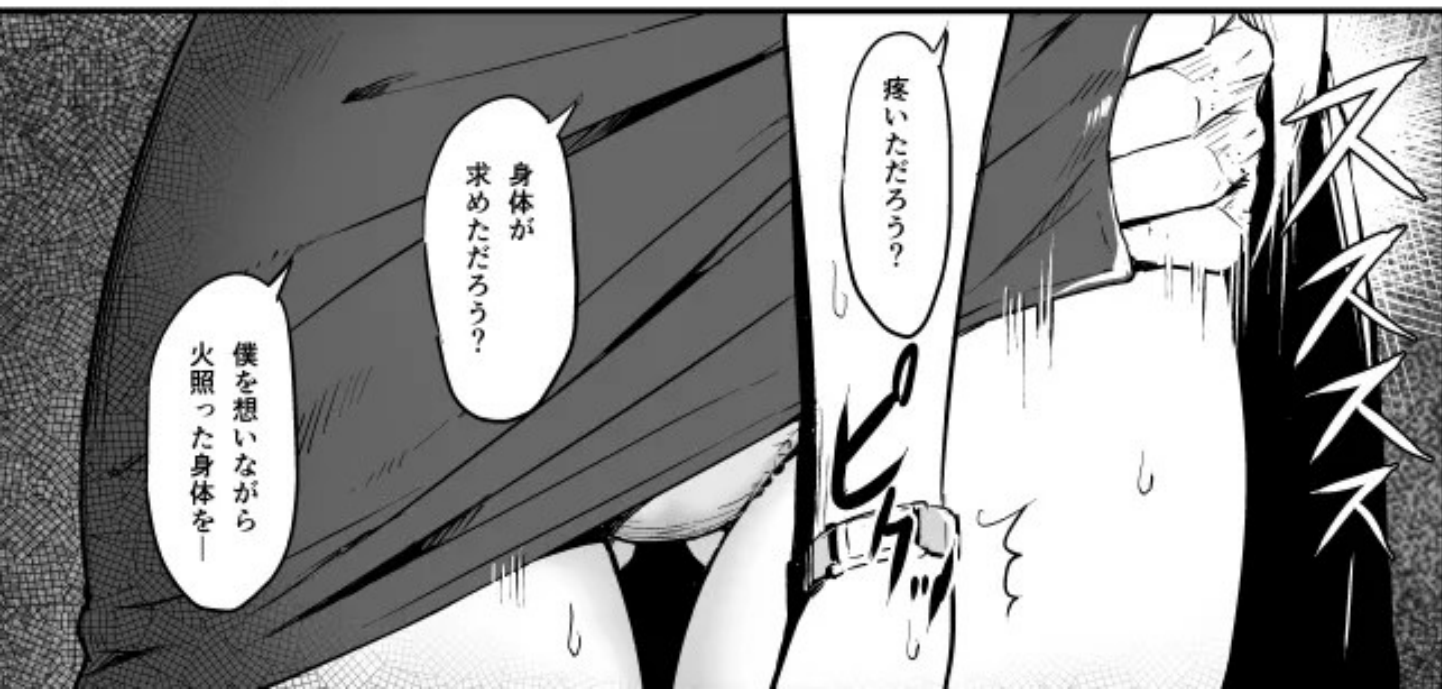
体調不良ということ
休んでいたみたいだが...



な...なにが...
ですか...？

とぼけなくて
いいぞ？

ずっと僕のことを
想っていて
くれたんだらう？



疼いただらう？

身体が
求めたらう？

僕を想いながら
火照った身体を





自分で慰めて
満足できたのか？



本当はこれを
期待して来たんだろ？



ありません……っ！

そんなこと……



なに？

わたしは教師を
辞めるつもりです……

それに……



まだ辻を
気にするのか……？！



あんなところを
辻くんに……

生徒に
見られたんです

ここにはもう
居られません……





心配するな

大丈夫だ
学校にはバレない

そういう…

問題じゃ…

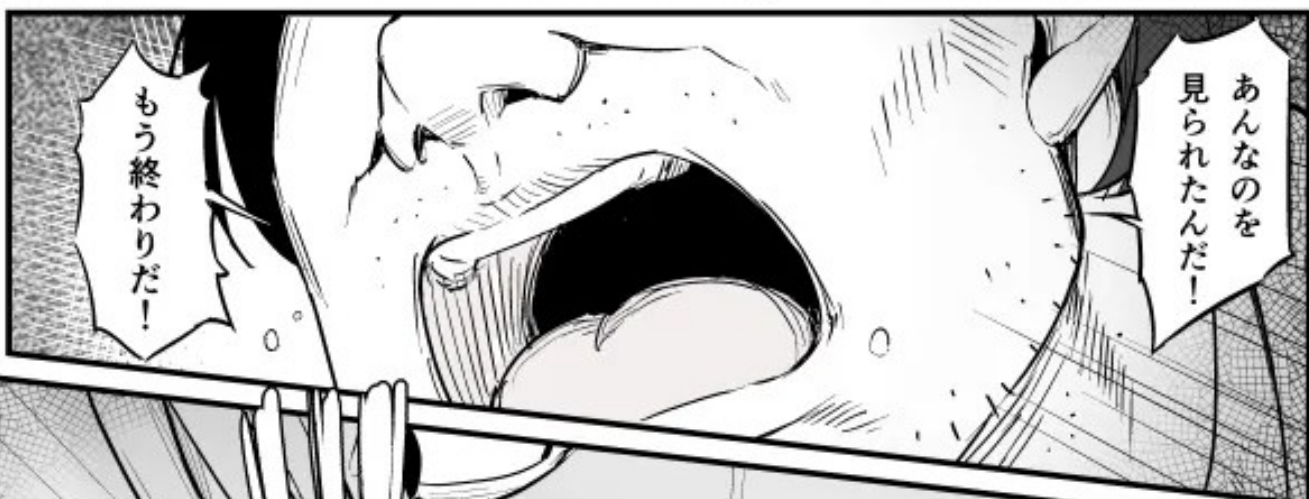


録画してた
あの時の映像を
確認したが

あいつ
柵に隠れて
見てたのな

……

でもあいつは
黙っているじゃないか



あんなのを
見られたんだ！

もう終わりだ！



いい加減
辻は忘れろっ！！

思い出せっ！

これで膣内を
掻き回されたことを！

ぐちゅっ

ぐちゅっ

思い出せっ！

誰に気持ちよく
させて貰ったかを！

辻では無理なんだ！

僕じゃなきや
ダメなんだっ！

辻なんか見るなっ！

僕だけを見ろっ！！

僕を愛せっ！！

……っ

ゆっ



どうせ約束の相手は
居ないんだ

おまえと辻の件
口が滑りそうだ!

そんなっ!



ふんそうか!

奈々美が
居なくなるなら

約束なんか守らなくても
問題無いよな?!



また
辻の為だと...?

くそ.....っ

意地でも
僕のものには
ならないつもりか...っ!



わかりました...

辻くんが
卒業するまで...

その期間だけ.....



奈々美...

服を脱げ



だからこうやって

僕にまた身体を
委ねてるんだ！



もう僕のことを
愛おしくて
たまらないだろっ？！



気持ちいいだろ
奈々美っ！

どうだっ！

思い出したかっ？！



癒さ……癒さ……

これは…

辻くんを守る為…

ですっ

また辻っ!

辻っ!!

辻っ!!

そうか!

ならそんながんばってる
奈々美の姿を

辻にもまた
見せてやらなければな!

えっ?!

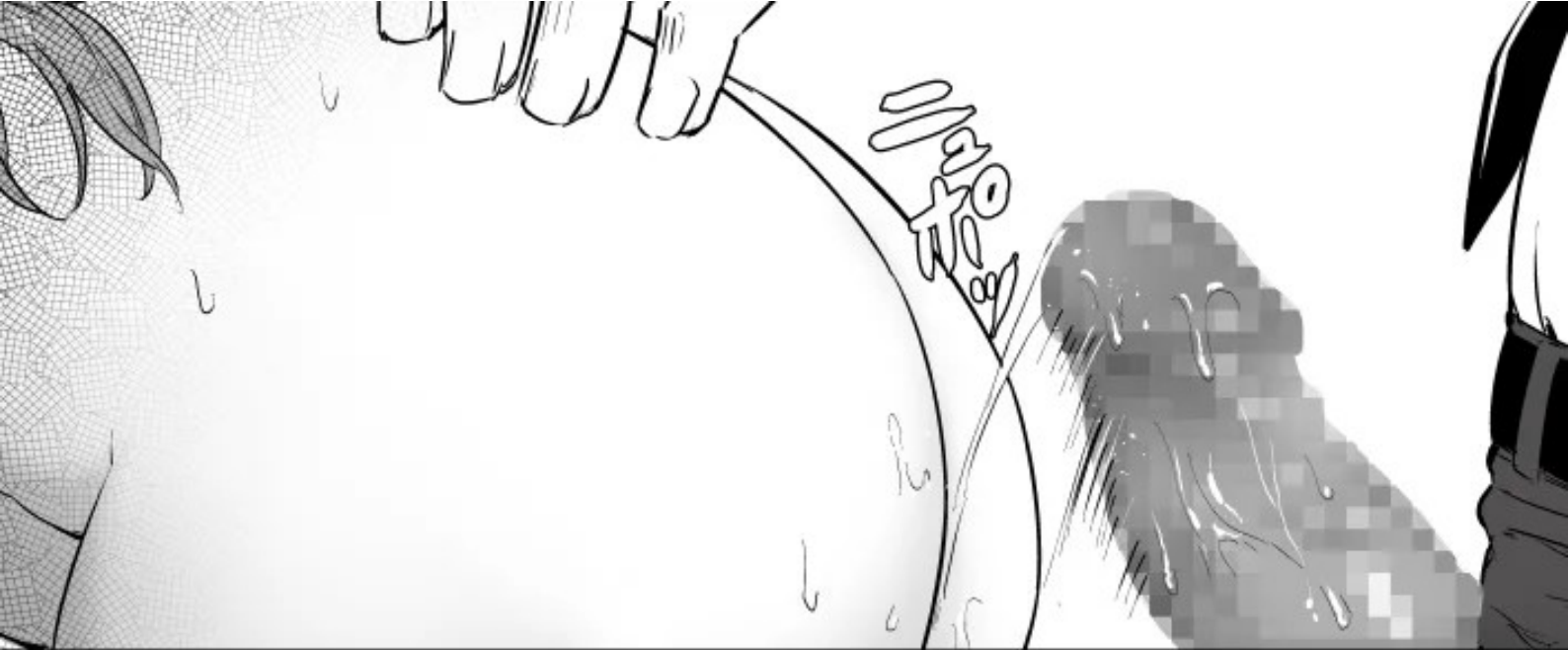
今録画しているデータを
辻に送ってやろう
それであいつも
奈々美に感謝するだろう!

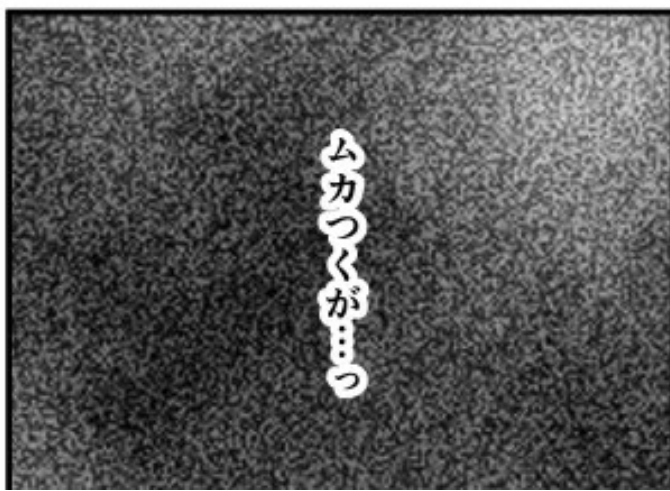
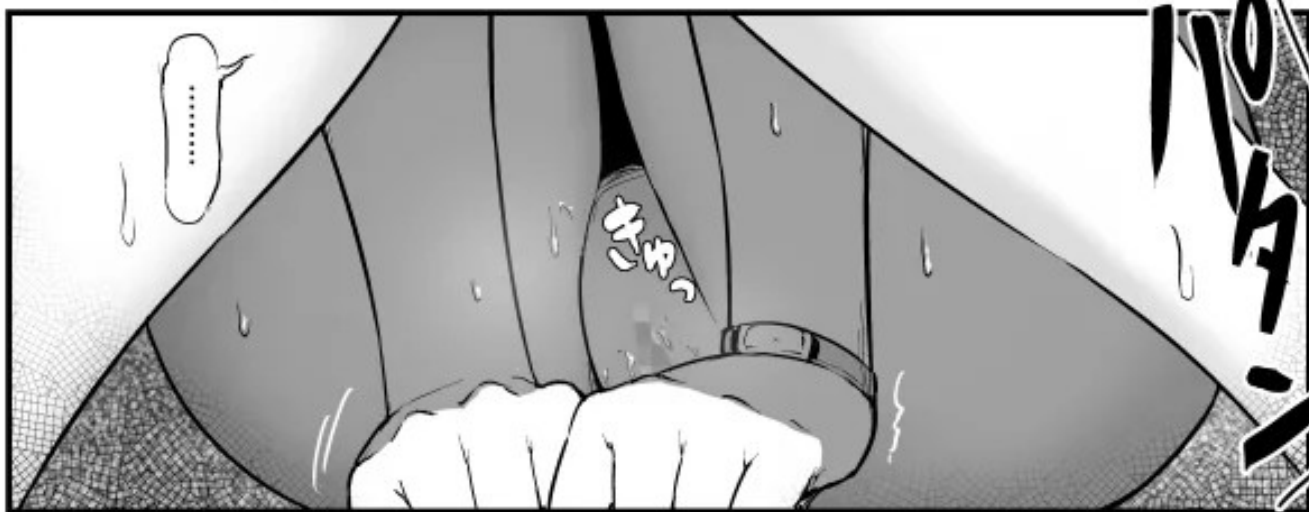
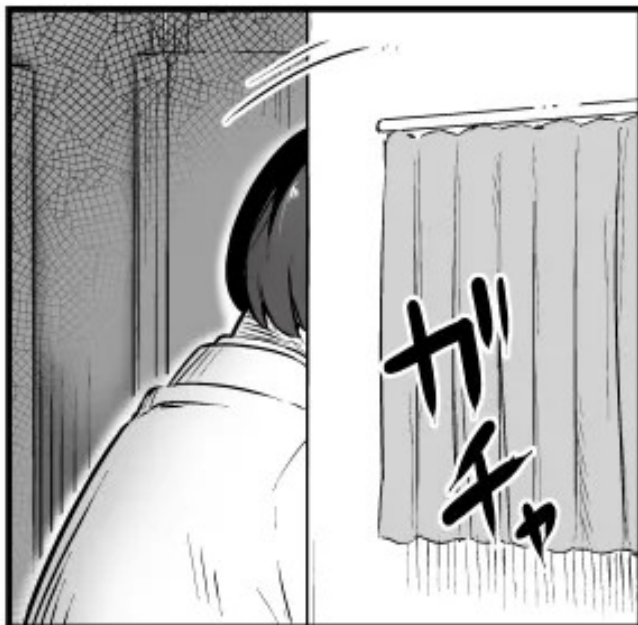
そんなっ!

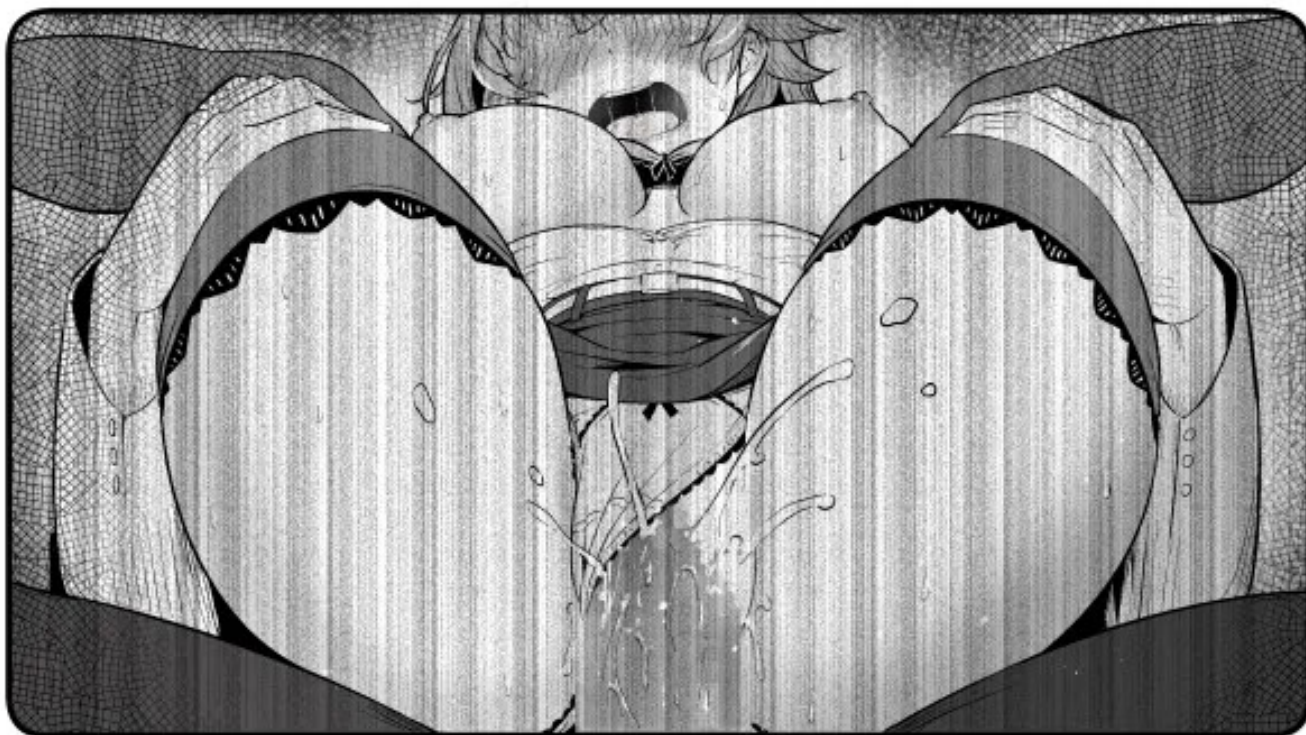
それだけは
許してください!

これ以上辻くんを
傷付けたくない!

うるさい!!



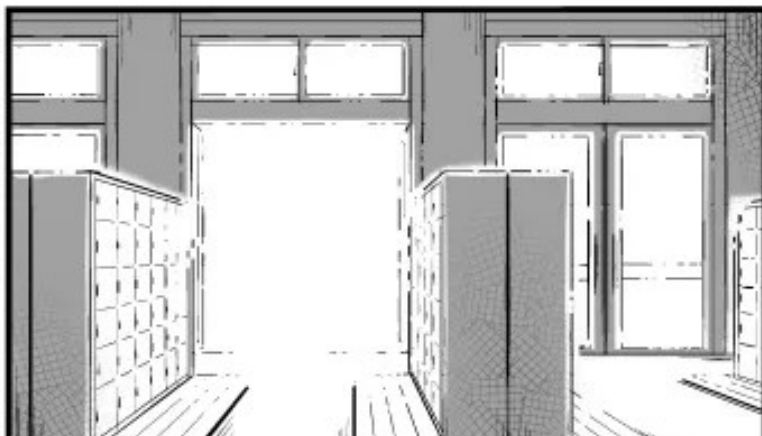












化学準備室











早く……

は……

!!



奈々美…先生…?

何…

言って…



ふふ…

奈々美は
もう限界だ

ここ数日
奈々美がいくす前で
止めてやった



今日も
おやすみー



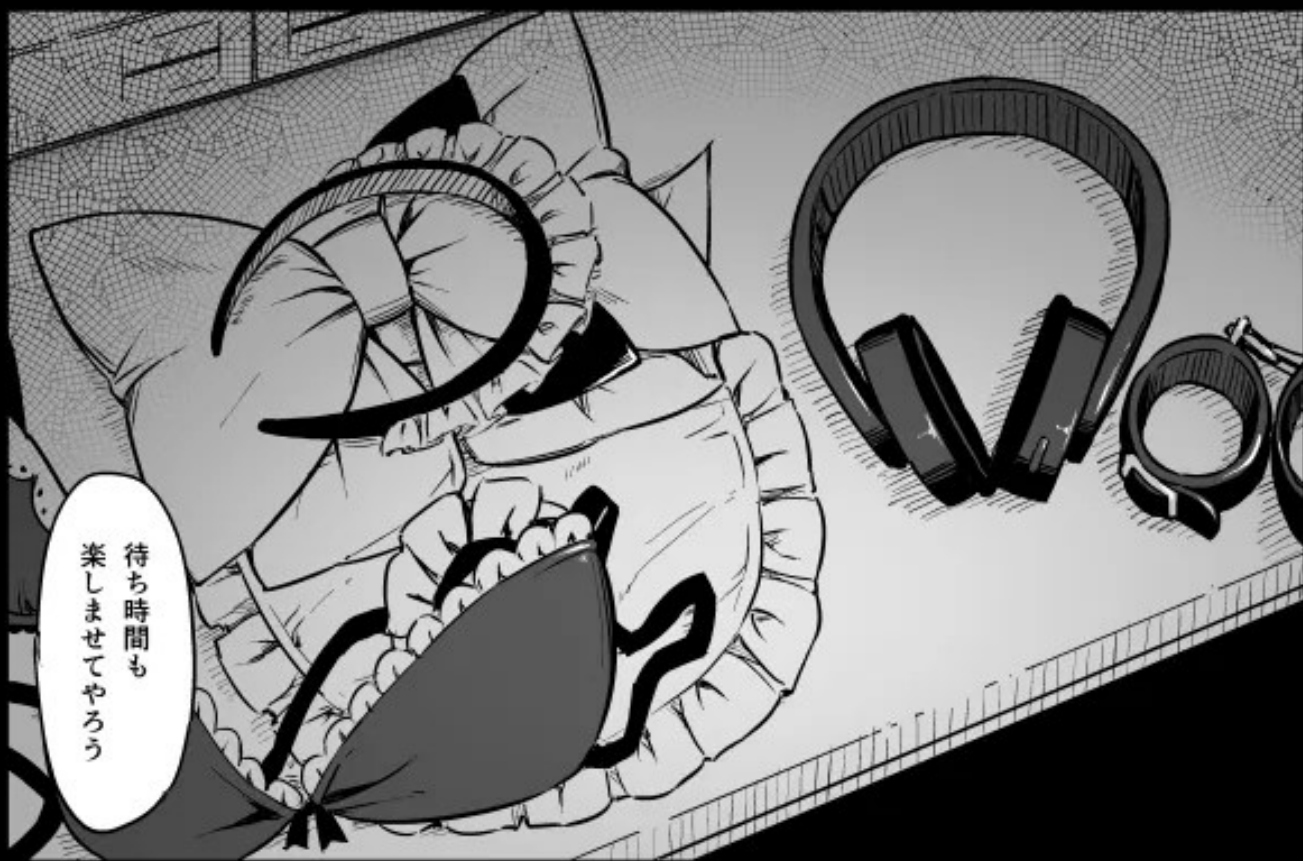






しかし

ただ待ってるのも
あれだろう



待ち時間も
楽しませてやろう



ほら

僕を待って
いただけろ？



わかったか？

奈々美と僕は
そういうことなんだ

.....

だが

おまえも
心残りが
あるだろう

？



1回だけだ

憧れの奈々美先生を味合わせてやる

はあ?!

ふ...
ふざけんな...っ

ん...?

いのか?

奈々美を好きにして

?!

こんなチャンスはもう来ないぞ?





奈々美先生と

二人っきり



パン



竹田が
居ない今なら

奈々美先生を
解放できるじゃないか!!

そうだ...っ



パン

.....



でも

解放して
どうなる?

奈々美先生はもう
竹田を受け入れてる

それにここで
目隠しを外して

居ないはずのオレを見て
奈々美先生はどう思う?

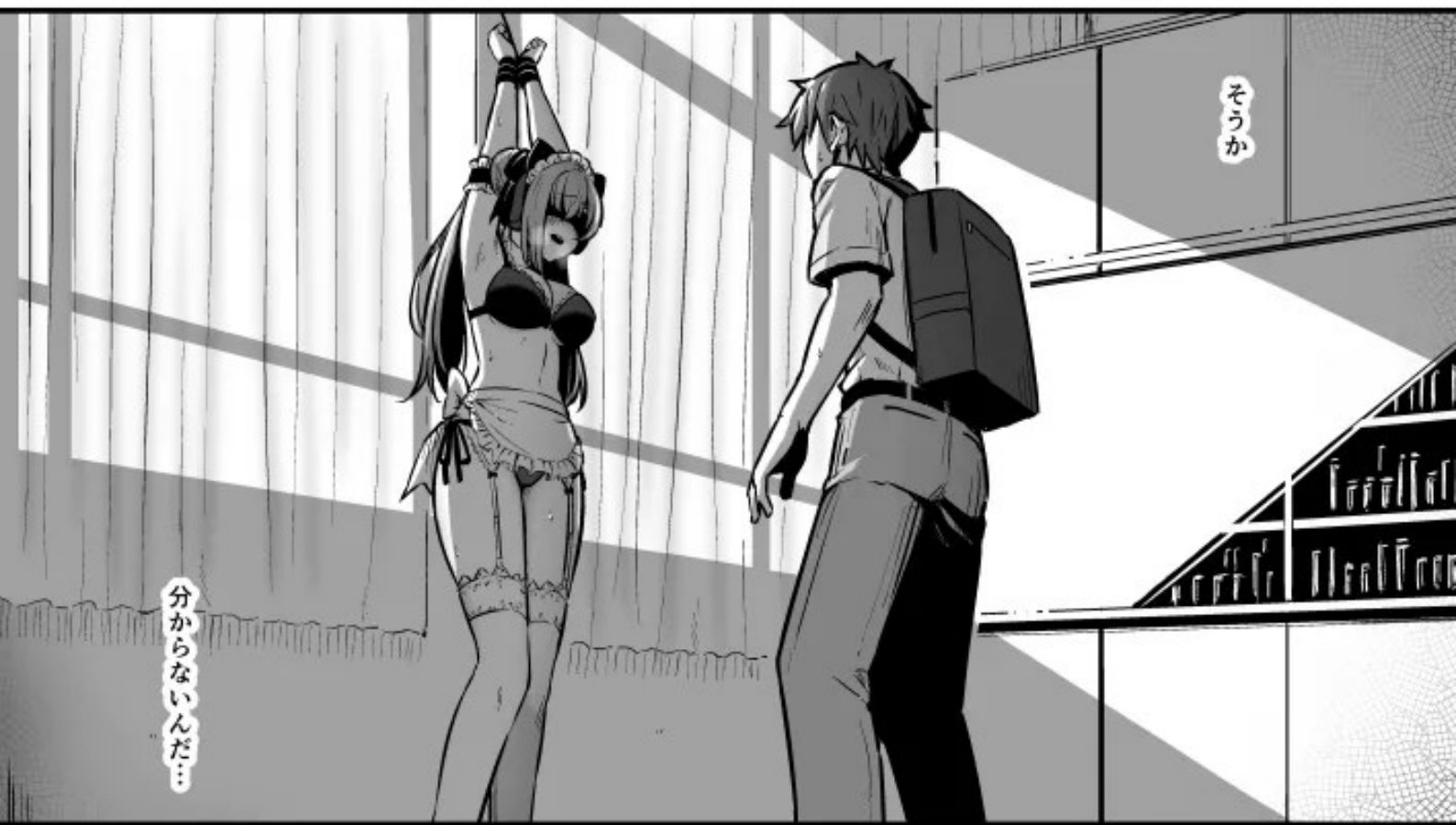


あ...



今ここに居るのは
オレだと

分からないんだ



そうか

分からないんだ…





奈々美先生…



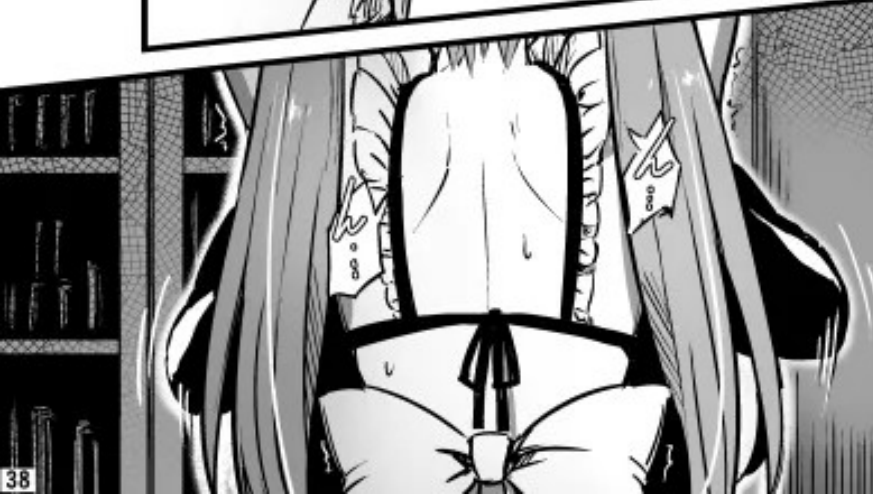
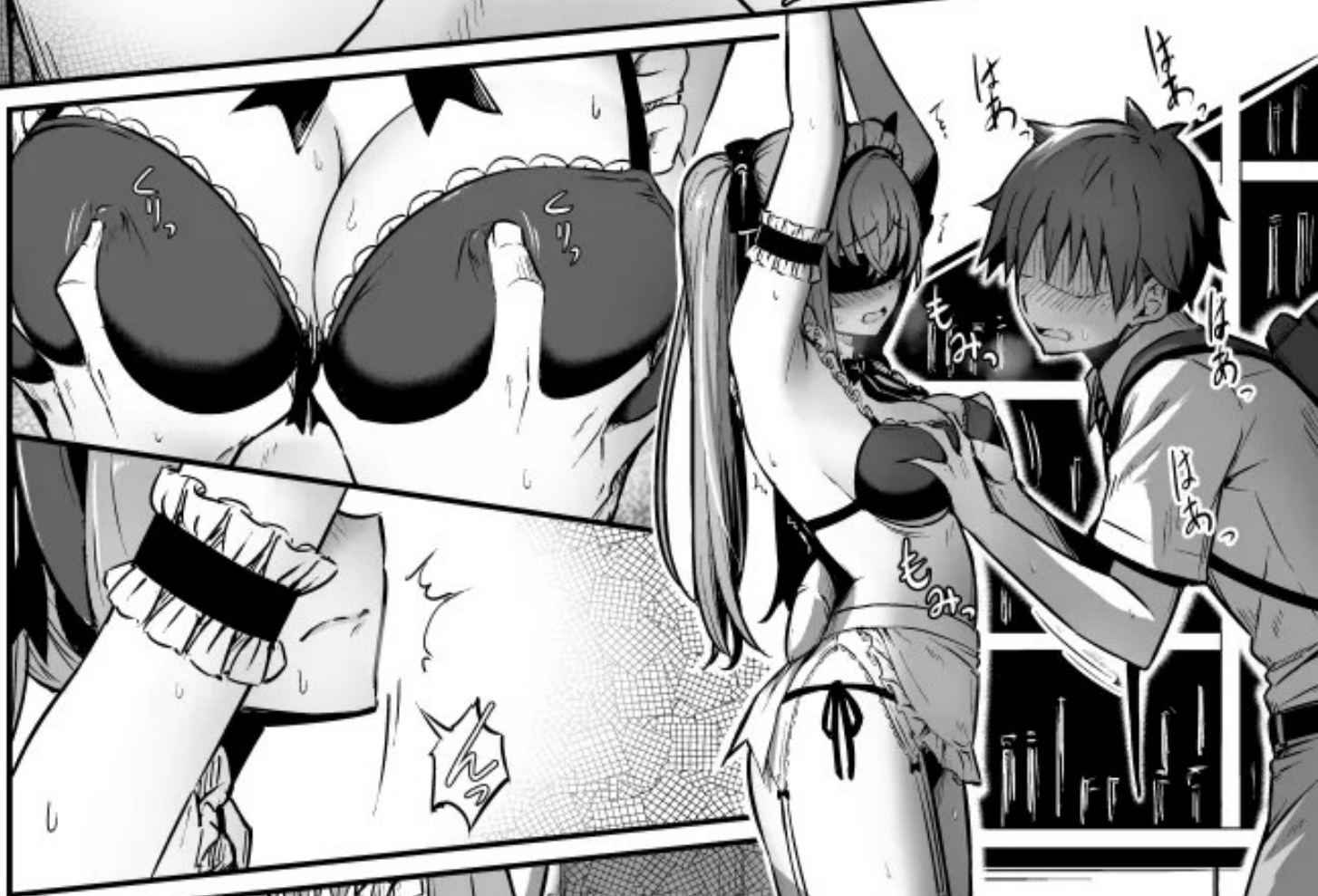


奈々美先生…っ！











はあ...っ



はあ...っ



はあ...っ



ああ...



あ...

奈々美先生っ！

この甘い香りの

いつも隣でっ

くんくん

くん

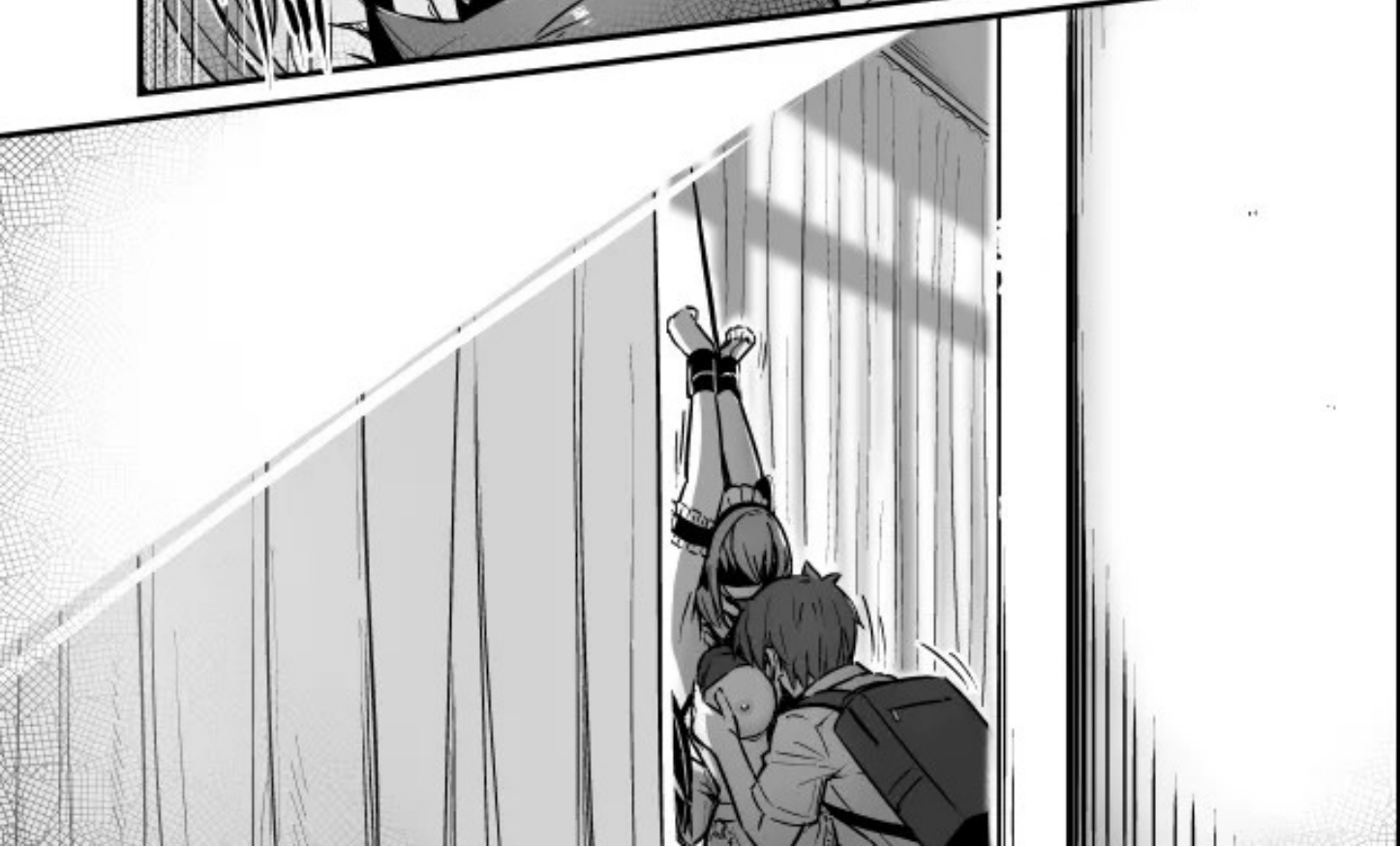
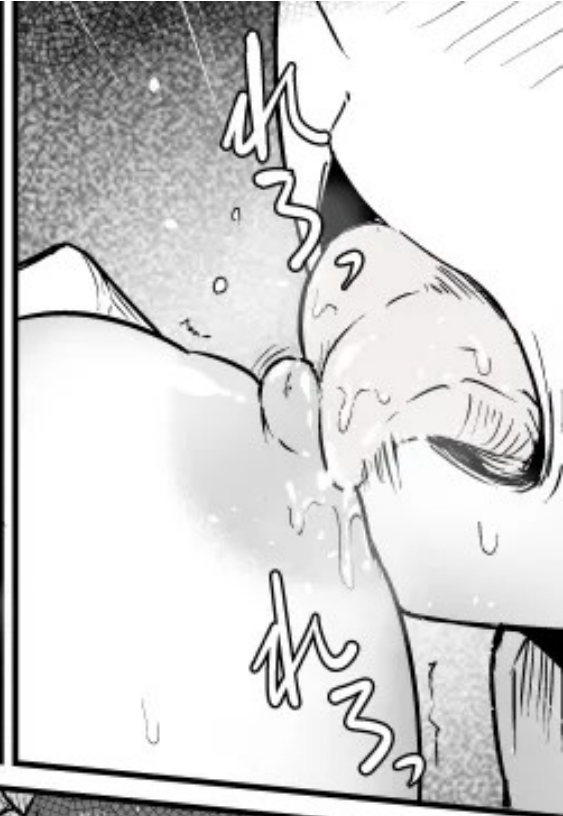
奈々美先生っ！

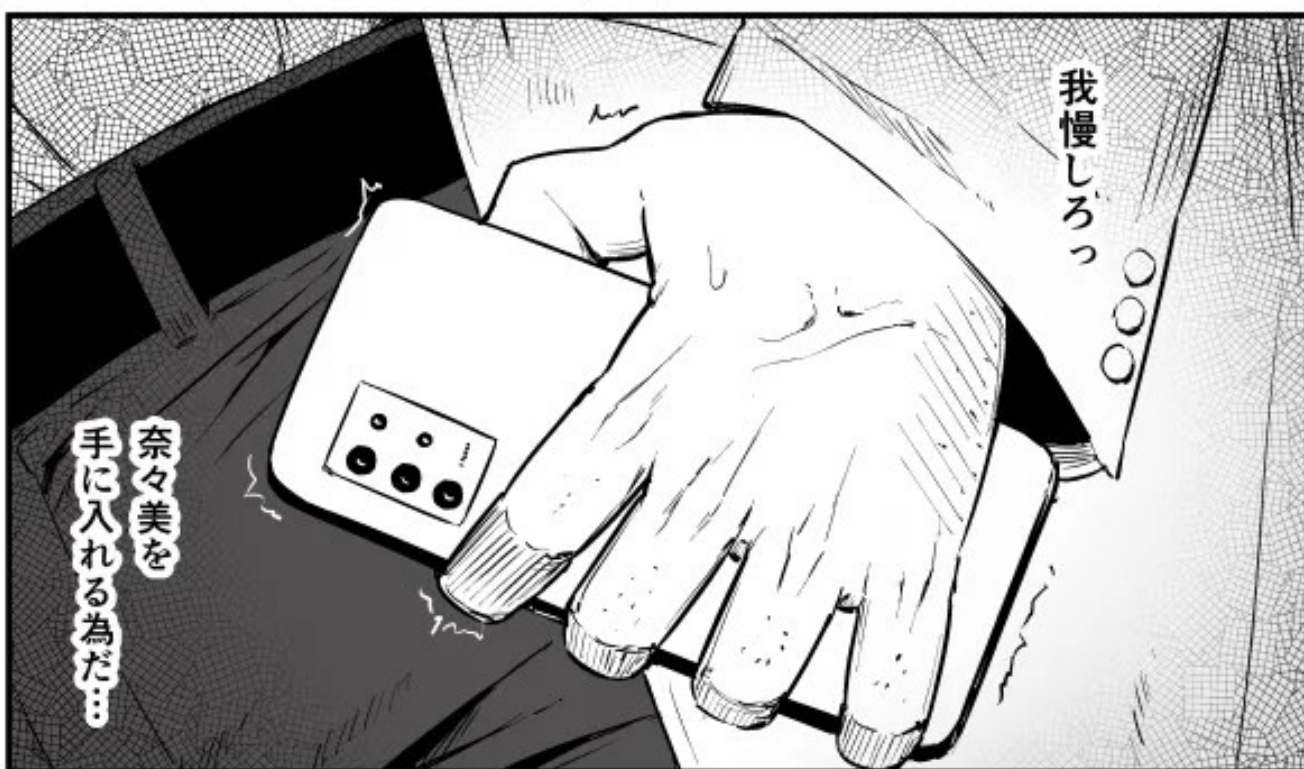
奈々美先生っ！

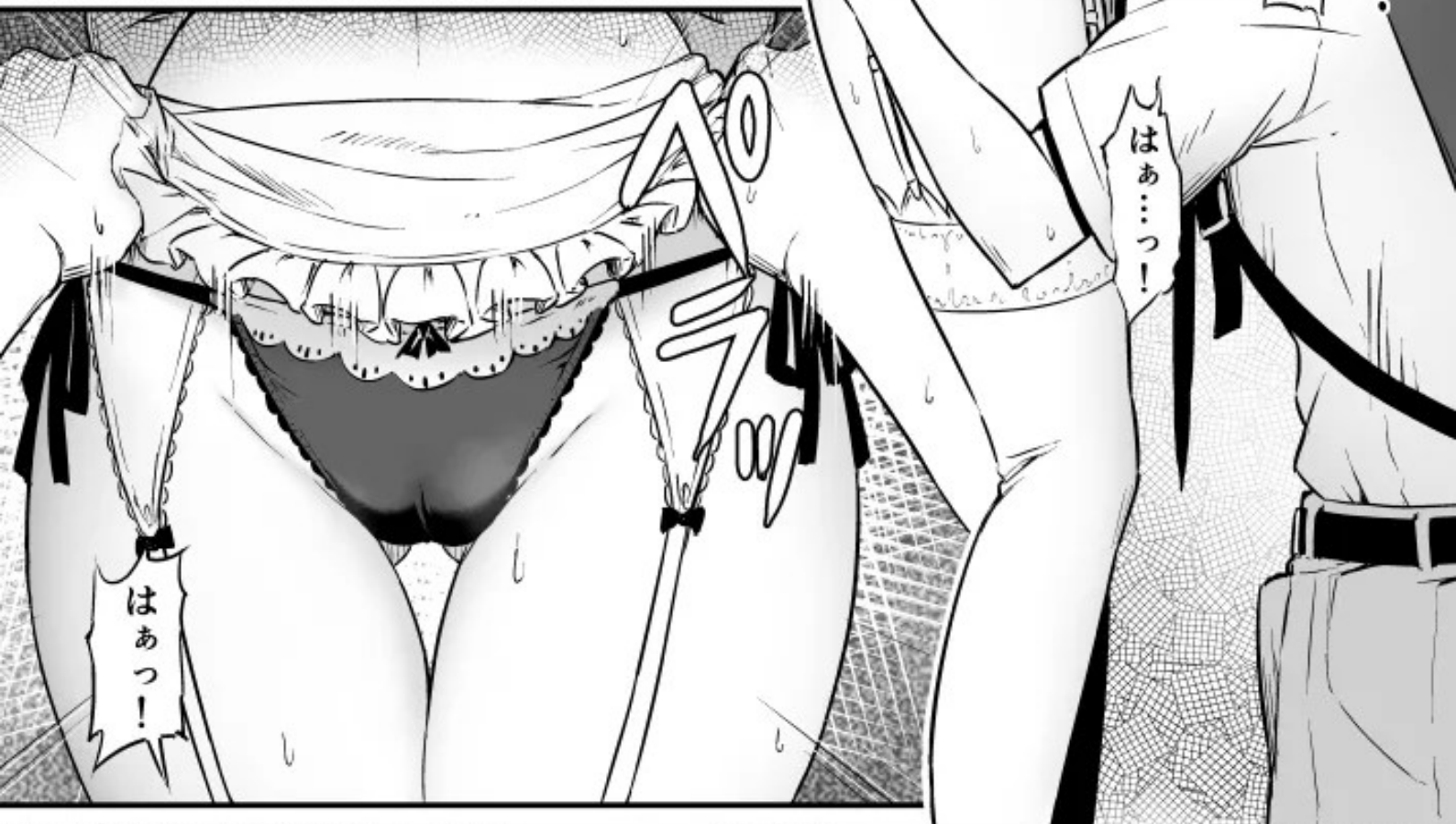
もにゅ、もにゅ、

オレの大好きな…

しゃるるる









ああっ

奈々美先生の
体温っ！

奈々美先生の
匂いっ！











ふおお...っ

ふ...

ふおお...っ

ふおお...っ



こ...
これが

奈々美先生の

腔内...

く
に
ゆる
る

すごい熱くて...

ぐちよぐちよ



気持ちいいっ!



はあっ!

はあっ!

溶ける...っ!

くしゃん
くしゃん
くしゃん



ダメだと
思っていたながら

いつも妄想していた

その奈々美先生に

オレは...っ!!



あああ…っ！

ガサッ

ガサッ

はあっ！

はあっ！



奈々美先生っ！！

ガサッ

ガサッ



好きだ！

好きだ！

くちゅっ

くちゅっ

くちゅっ

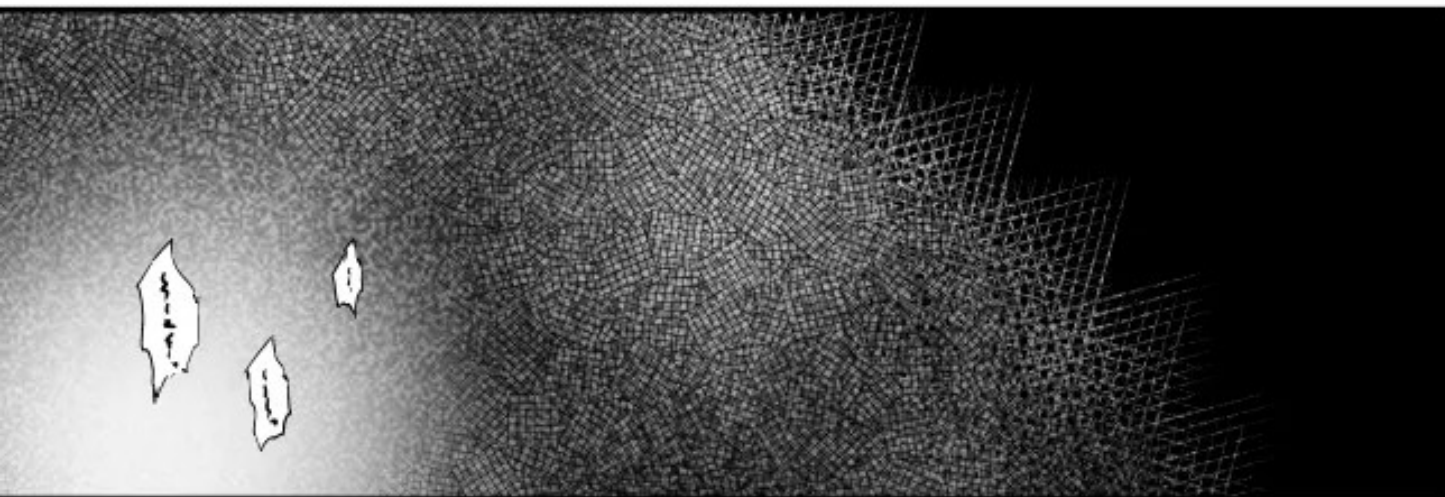
好きだ！！

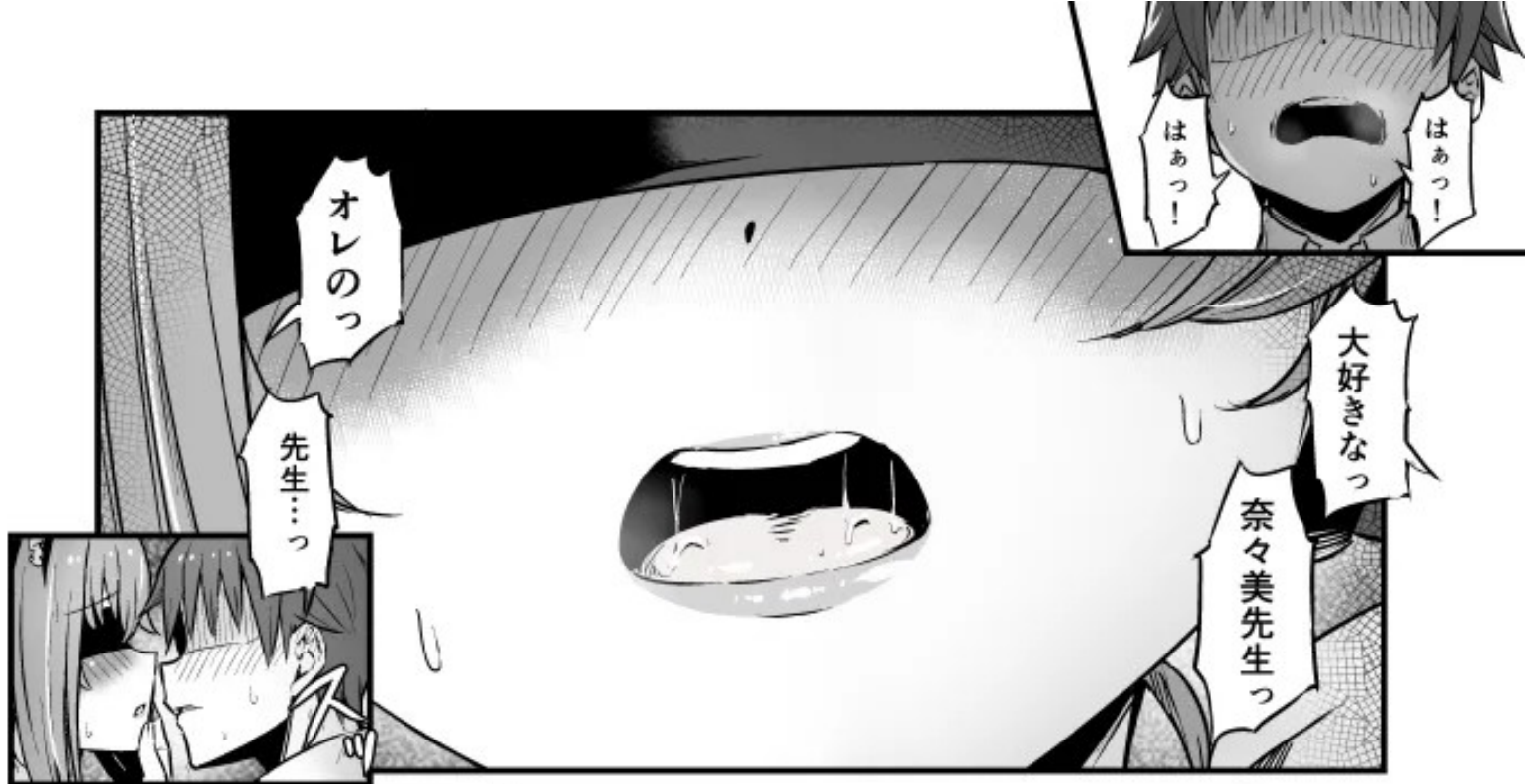


ガサッ

ガサッ

ガサッ



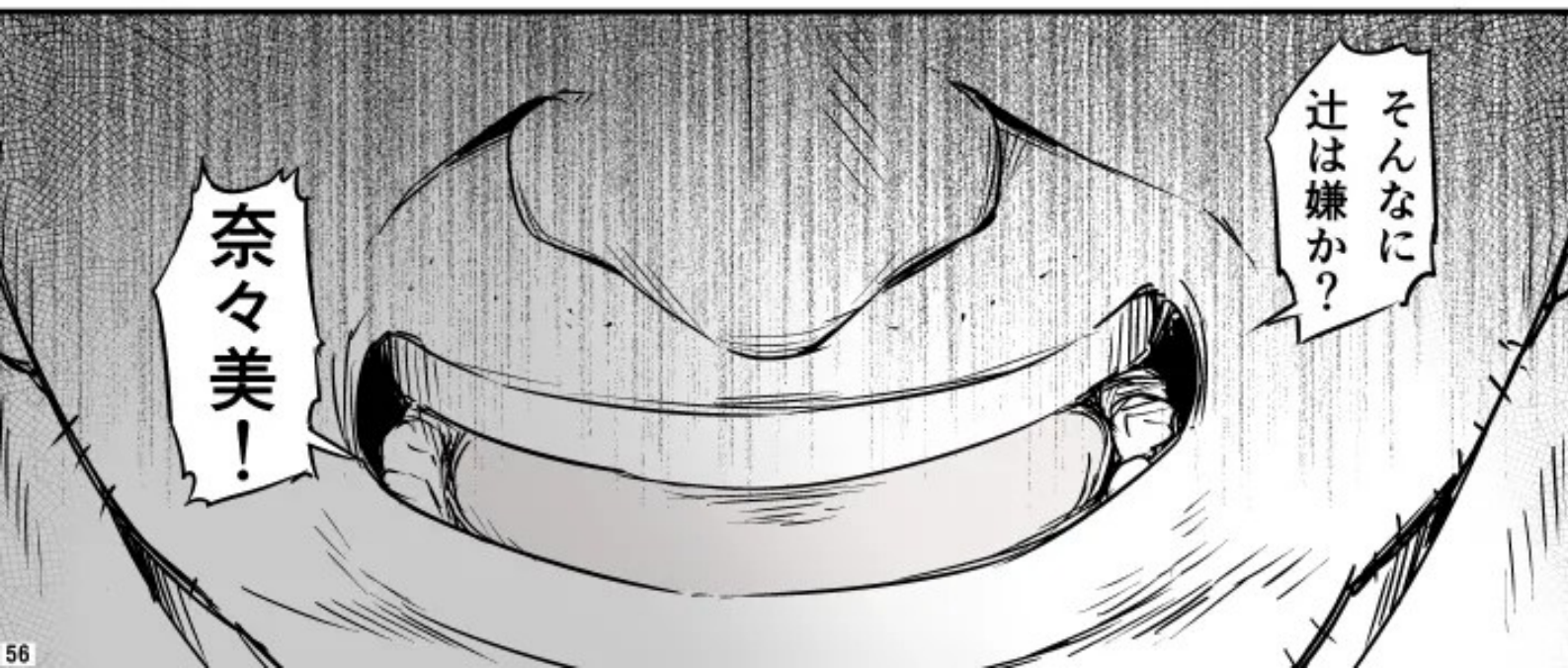






辻……くん？

……え……？







辻のちんぽは
どうだった？

!



全然声も
出てなかったな

僕との時は
あれだけ声をあげるのに

満足できなかったんじゃないのか？



そ…

そんなこと…



どうだ？

僕のこれが
恋しいだろ？





あ、あ、あ

あ、あ、あ



あ、あ、あ

あ、あ、あ

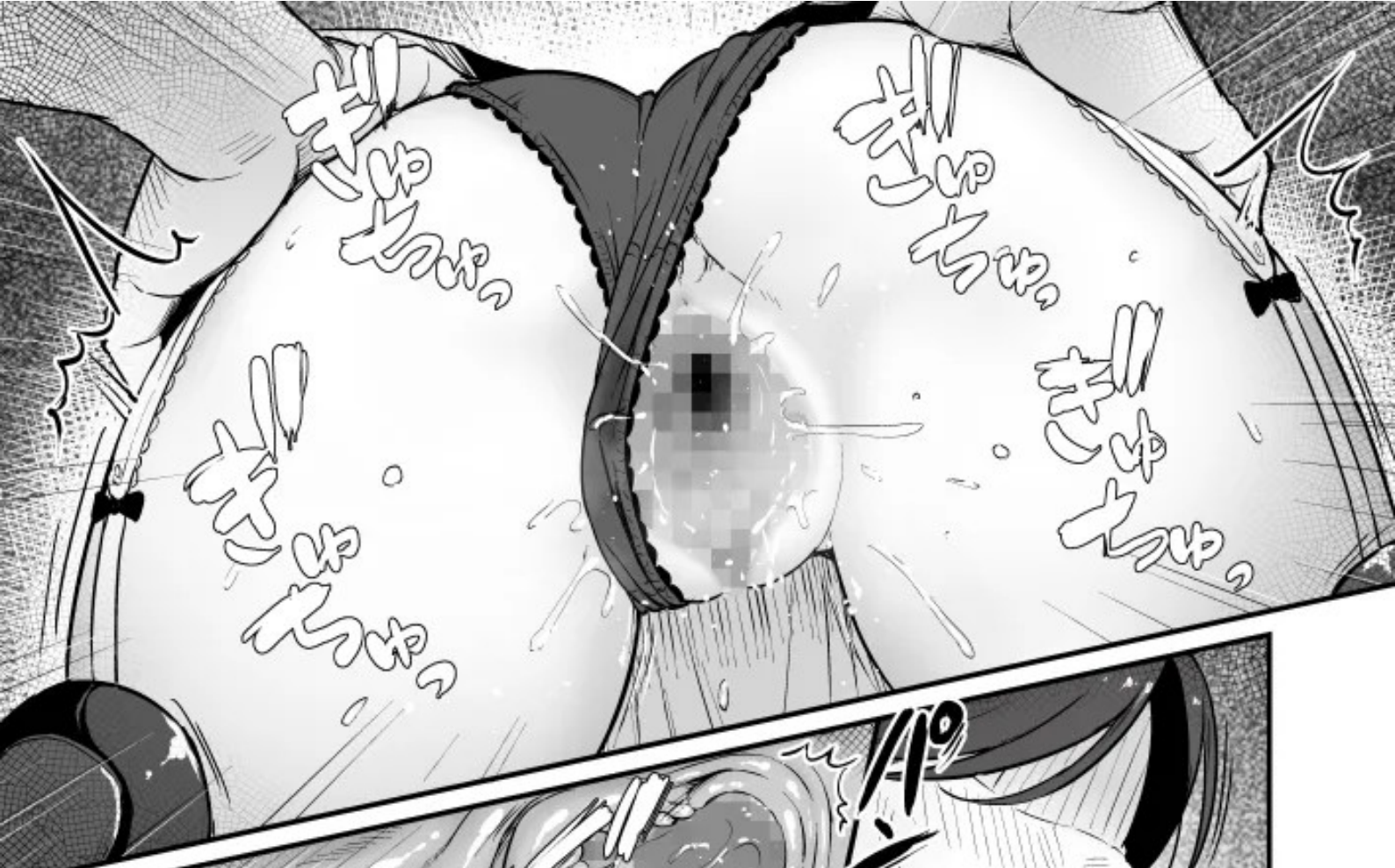
あ、あ、あ



あ、あ、あ



あ、あ、あ



ここ数日

ずっとおまえが
待ち望んでいたものだ!

こうやって

疼く膣内をっ

掻き回して
欲しかったんだろっ?!

奈々美先生...

オレの時とは
全然違う...

こいつのが
そんなに



気持ちいいの...?



ああ、
すごい
吸い付きだっ

やっぱり
僕のちんぽが
大好きかっ!

こっちの
ちんぽのほう
が
いいって

辻に
言
って
や
れ!







これでもまだ
辻のことをっ!!

クソっ!

何勝手なこと
してっ!!?



このっ!!

このっ!!



ここを
擦ってからっ



こうだっ!!



まだ
分からないのかっ!?

おまえの身体は
僕が一番知っているんだ!



ほらっ!

ほらっ!

たまらないだろ?!

ほらっ!

ほらっ!!

膣内なかが
きゅきゅっと
締まってきたな!

いきそうなんだろ?!

もちろん
分かってるぞ?!

ほらいけっ!

いけっ!

辻なんか
無視して

盛大にっ

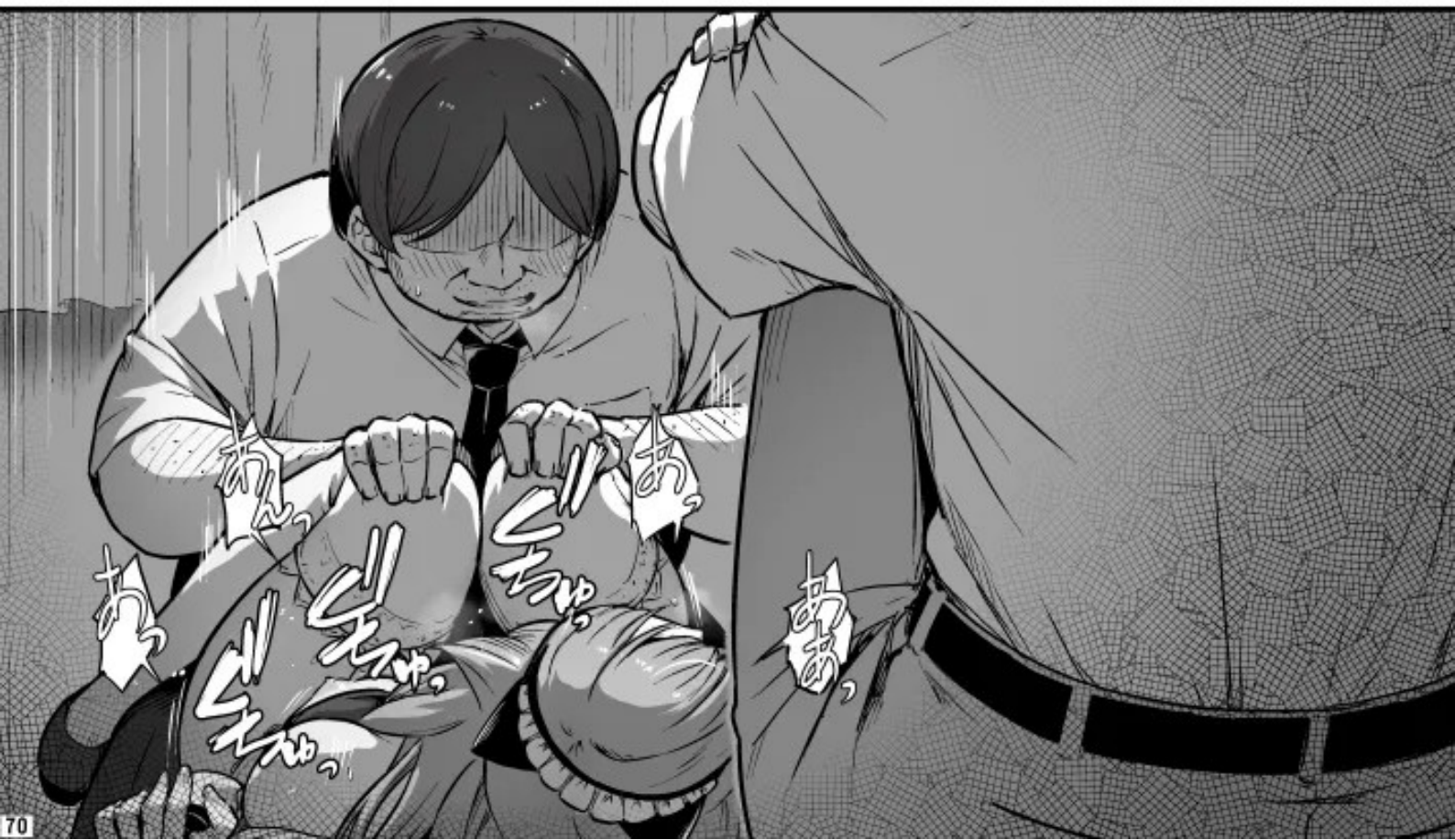
いけっ!!

あああ!!

どうだ分かったか

おまえは
辻なんかより

僕を
愛しているんだ





あー絞まるっ

ぐちゃるっ

ぐちゃるっ

ぐちゃるっ

いきっぱなしだな!

ぐちゃるっ

ぐちゃるっ

ぐちゃるっ



おいおい奈々美

辻に見られて興奮してるのか?

本当に人に見られるのが好きだなっ

はっ

はっ

ぐちゃるっ

ぐちゃるっ



奈々美先生!





